

多賀城がたっぷりつまった オリジナル料理 やかもち鍋

おともものやかもち

多賀城にゆかりのある歌人大伴家持とお餅を掛けて名づけられた「やかもち鍋」。

和歌にちなみ短冊切りにした地元の野菜（大根・人参など7種類）、家持は奈良の都から来たということで京風の白だし醤油、若い人にも好まれるようにと鶏肉、そして多賀城産の古代米のお餅が入っています。



イベントに出店して多賀城の物産を市外へPRするとともに、地域の誇りとして地元の人たちへ伝えていきたいそうです。



隠し味は多賀城への想い

多賀城には名物が少なく、物産をPRする機会がありませんでした。そこで、「名物がないのなら自分たちでつくろう。」と生涯学習100年構想実践委員会の中に物産研究会が立ち上がり、多賀城の食材をふんだんに使った料理として考案されました。多賀城を盛り上げていきたいというメンバーの想いが詰まった「やかもち鍋」は、今では多賀城のイベントの定番となっています。今後は、料理教室などを通して「やかもち鍋」を広め、たくさんの市民をまきこみながら多賀城を盛り上げていきたいそうです。

生涯学習100年構想実践委員会

多賀城に住む人たちが生涯にわたり、学習していく機会をつくることを目的に1995年に設立した団体。30名以上の市民がメンバーとなり、男性対象の料理教室、茶道教室、ぶらり散歩、小学生対象のクラブ活動など、さまざまな企画を実施しています。



ヒントfrom“たがさぽPress”

たがさぽのブログから地域づくりに役立つ記事をご紹介します

詳しくはブログへ <http://blog.canpan.info/tagasapo/>

● スマホのゲームで地域おこし!? リアル陣取りゲーム「Ingress」

2015年1月29日(木) 掲載

ITの技術を活用し、自分のまちにたくさんの人に来てもらい、魅力を発見してもらう仕掛けづくり。各地の活用事例もご紹介。

● つながってすべての人が安心して暮らせる地域に

2015年1月22日(木) 掲載

仙台市東中田地区では地域のさまざまな団体がネットワークを形成し、すべての人が安心して暮らせるような地域づくりをしています。

● なべまつり「鍋食べて心も体も温まる」

2015年1月11日(日) 掲載

多賀城を盛り上げようと奮闘する団体がタッグを組み、12月に開催された「なべまつり」。「やかもち鍋」をはじめ、多くの鍋が出品されました。



たがさぽからのお知らせ

たがさぽが企画する「一歩ふみだすきっかけ」をご紹介します

想いを地域に活かす!

「マイプラン」づくりはじめての一步講座

全国各地で地域づくり実践塾を手がける尾野寛明さんを講師に迎え、各地の事例を含めた地域づくりのお話と、想いをカタチにしていくグループワークを行います。「多賀城のために〇〇に取り組みたい!」「自分には何ができるかな?」そんな想いを抱いている方は、ぜひご参加を!

日にち	2015年3月21日(土・祝)
時 間	午後1時30分～午後4時30分
会 場	多賀城市市民活動サポートセンター
参加費	500円
定 員	15名
申 込	多賀城市市民活動サポートセンター窓口または電話にて
問 合	022-368-7745

“たがさぽPress”とは?



たがさぽスタッフによるブログ。興味が湧いたらたがさぽPressへ! ＊ケータイ、スマホからもご覧いただけます。



地域密着で活動するからこそ見える 「震災」の課題から「地域」の課題へ

多賀城市では、2014年10月に桜木地区災害公営住宅への入居が開始されました。2015年度には新田地区と鶴ヶ谷地区、2016年度には宮内地区の災害公営住宅が完成します。一方、それに伴い応急仮設住宅も解消に向かいます。今回は、市内の仮設住宅で活動する団体「**やましたさんとみんなの工作教室**」にお話をうかがいました。

—活動の中で現在感じていることはありますか？

私たちの活動によく参加していた方たちが仮設住宅を出ましたが、これで一段落だと思っ一方で不安もあります。というのも仮設住宅でよく聞く「子どもの居場所が少ない」「まわりから孤立している住民がいる」といった課題は、仮設住宅だけで生じているわけではありません。災害公営住宅や他の地域でも充分起こりうることです。なので、これらの課題に対応できる環境が、引越し先の地域で整っているかどうか心配です。

—活動の成果と課題を教えてください

仮設住宅で子どもたちが存分に遊べなかったという状況があり、せめて工作教室が開催されている時は子どもの居場所をつくってあげたいと思い活動しています。ここでの居場所とは、「談話室を子どものために使うこと」と「大人（私たちや仮設住宅住民）が、子どもが置かれている状況に理解を示すこと」です。その点では、少しばかりですがお役に立てたと思います。しかし、災害公営住宅、そして多賀城全体を見たときには何もできていません。今後、どのように地域の課題にアプローチするかがテーマです。

—今後、地域の課題を解決するには何が必要だと思いますか？

私たちをはじめとする支援団体は、活動の方向性を見直さなければいけません。仮設住宅が解消される、あるいは仮設住宅から子どもがいなくなる状況は近々やってきます。その時、私たちには、大人も含めた支援に手を広げる、活動を災害公営住宅に移す、震災の枠をはずし地域で活動する、活動を終わらせるなど、いろんな選択肢があります。子どもを対象とした活動でなくても、これからの方針について考えている団体も多いのではないのでしょうか。しかし、今後は支援団体だけで地域の課題を解決していくことは困難です。1つの団体ですべての地域を長期にわたって見ることはできませんからね。これからは町内会や子ども会、あるいは地域にあるさまざまな団体の力を合わせて、地域の課題に向き合うことが必要だと感じています。

やましたさんと
みんなの
工作教室

ピューツ！

チョキ！ チョキ！

手を動かすって
楽しいね



震災直後から多賀城市内の避難所・仮設住宅で子どもの居場所づくりを目的に活動している団体。現在は毎月1回、仮設住宅談話室で工作教室を実施しています。**当初は東京から来ていた山下剛史さんが個人で行っていた活動でしたが、現在は地元住民が引き継いで団体として続けています。**

連絡先：sikultra@i.softbank.jp



毎月参加してくれる常連さん



「tag」には、多賀城（tagajo）の頭3文字、みんながタグを組んで地域をつくる、多賀城に新しいタグ（価値）をつける、という意味が込められています。



「たがさぽ」ではツイッターもやっています。フォローお願いします！
@tagasapo



「たがさぽ」ホームページはこちら
<http://www.tagasapo.org/>